

第 3 回 SC 委員長会議報告

日 時： 2001 年 7 月 6 日（月）13:00～17:00

場 所： 電気学会 第 2～5 会議室（市ヶ谷 Homat Horizon ビル 8 階）

出席者： 各 SC 国内分科会委員長，JNC 委員長，副委員長，本部理事，幹事団他

議事内容：司会 加藤幹事

(1) 開会挨拶（志賀委員長）

- ・ CIGRE 初の Regional Council として，タイ・バンコクにて AORC を正式に立上げた。パリ本部からも注目されており，CIGRE の地域活動活性化のため今後ともご協力頂きたい。
- ・ 我が国からの本部 SC 委員長選出が悲願であり，先般それを目指した次期国内 SC 委員長交代候補選出に関するレターを各国内 SC 委員長宛にお送りしたので，ご協力をお願いしたい。
- ・ 本部 SC が構成変更となり，その数が 15 から 16 に増える予定である。これは，非常に多くなってきている SC 間の境界領域での Joint session を整理することと，自由化に伴い電力のサポートが無くなるのではとの危機感から，電力市場の新しいプレーヤにも魅力があるようにする狙いがある。

(2) 本部状況報告

1) 執行委員委員会報告（関根本部理事）

- ・ 執行委員（現在 15 名）の選出方法の見直しについて提案があり，減らす方向で検討が進んでいる。
- ・ SC 構成変更について，現在 15 の SC が 3 つの分野に分かれている体制を，4 つに変更する。特に"System (C1～C6)" については，従来とは異なり新しい項目が加わっている。この背景には，現在の Activity が高電圧電力分野中心であるものを，電力関連技術全般（情報通信・配電）に拡大にしようとしていることがある。
- ・ 従来は Engineer が活動対象であったが，今回から"TG"というお客を示す ABB の言葉が採用され，Accountant，弁護士，Regulator，投資家も対象にしようとしている。
- ・ 来年 2 月に新 SC 委員長の Proposal があり，新しい体制の準備が進められる。

2) ELECTRA 編集委員会報告（福井幹事：ELECTRA 編集委員）

- ・ 1999 年～2000 年の 2 年間で 3 回の ACCOPE（ELECTRA 出版政策諮問委員会）が開催され，アンケート等により，ELECTRA の編集方針の見直しを実施された。この ACCOPE を引継ぎ，新たに 2001 年度より TC の代表者，地域代表者，ACCOPE 元委員の計 11 名で構成される ELECTRA 編集委員会が発足した。（日本はアジア・オセアニアの代表として参加。年 2 回の開催を予定）
- ・ ELECTRA 全 60 頁の内，18 頁に各 NC からのトピックスを掲載することとなり，日本

からは2月号に自由化について掲載し、8月号にAORCの設立紹介を予定している。

(3) 国内SC委員長交代について（松浦幹事）

- ・資料に基づき松浦幹事より、国内SC委員長の選定条件の確認を行った。
- ・来年8月に向け、新しい構成変更に対応できるように、具体的なSCの移行等、今後検討していきたい。

(4) 各SCからの報告と質疑（各国内SC委員長）

各SC活動状況・予定、今後のSC/WG/TF会議日本開催の可能性、SC活動上の問題点・課題、他SCやJNCへの要望事項、AORC TMテーマ候補等について、各国内SC委員長から資料を基に説明があった。

SC11：今後10年間のSC11戦略プランでは「機器の寿命管理」と「機器とシステムのインターアクション」を打ち出している。2003年に中国にてアジアでの3回目のSC11地域会議が開催予定。（東芝・伊藤委員長）

SC12：Workshopでは既に保険屋の参加があるとのこと。（日立製作所・天野委員長）

SC13：欧米では、リアクトル遮断およびコンデンサ開閉に適用すると「遮断器のコンタクトノズルの交換周期が2倍以上延長可能」であることから、位相制御が標準仕様となっている。系統短絡電流の増大に対しては、CBの遮断容量を増加させるのではなく、高圧限流器を適用して対処することに重点が置かれている。（三菱電機・吉積委員長）

SC14：AORCのテーマとして、電力系統の地域連系と広域連系について提案があり、既に韓国の賛同があるとのこと。（電力中央研究所・林委員長）

SC15：加藤幹事が代理として、水谷委員長からのメッセージならびに報告資料を紹介した。SC構成変更の内、「D1」にはSC15がそのまま移行するとのことであった。（名古屋大学・水谷委員長が急用により欠席）

SC21：SC定例会議を2003年頃日本で開催してはとの話があったが保留している。（住友電工・福永委員長）

SC22：関連する架空送電線路標準化委員会（IEC TC11 国内委員会）とも協力しながら情報発信に努めたい。（東北電力・久保田委員長）

SC23：10月のベネズエラでのコロキウム開催期間中に、日本からAORC参加国のSC23メンバーに5カ国ミーティングを提案したい。（東京電力・後藤委員長）

SC33：ケアンズのCIGREシンポジウムに2件論文投稿した。会議での発表も考えている。SC33の中に配電関係のWGがあり、休眠中であつたが、再立上げを予定している。（東京大学・石井委員長）

SC34：韓国より、ケアンズAORCのTMテーマとして"Testing period and lifetime assessment of digital relay"の提案があったが、次回の韓国ソウルでのAORCのテーマとする方向で今後調整する。（キューキ・栗林委員長）

SC35：新WG15「光ファイバ基盤とオプトロニクス」の主査を日本が担当する予定である。（中部電力・河津委員長）

SC36：SC構成変更に伴い、SC36の主な検討課題は「C4」に移行され、WG06で検討

している EMF については「C3」に移行されとの情報あり。(東京電力・渡辺委員長)

SC37: SC37 単独の活動よりもむしろ他の SC とのジョイント活動の必要性が増加しており、今後の SC 再編の中で解決されていくものと思われる。(関西電力・八木委員長)

SC38: イグアスシンポジウムに大山委員長が論文投稿し、参加予定である。(横浜国立大学・大山委員長)

SC39: 6 月ルーマニア SC 会議にて、2002 年 10 月日本開催予定の IEEE PES T&D Meeting での IEEE/CIGRE の Joint 企画を考える可能性を説明した。また国内委員会 SC39 のホームページを立ち上げた。(早稲田大学・岩本委員長)

(5) AORC 会議の報告と今後の進め方 (小海幹事)

- ・小海幹事から資料を基に説明があった。
- ・ケアンズ AORC では"Modern maintenance technique"であるが、同時期開催のシンポジウムの Subject 4 (Maintenance がテーマ) には日本からの論文投稿はない状況である。
- ・早急に関連する各国内 SC 委員長にレターを出すので、Contribution できるテーマがあれば連絡願いたい。

(6) パリ大会論文の選考方法の改善案について (横山幹事)

- ・横山幹事から資料を基に提案があった。
- ・シンポジウムや Regional Meeting への論文もできるだけ各 SC 国内分科会委員長に把握頂きたい。

(7) 2002 年第 39 回パリ本部大会開催について (江川幹事)

江川幹事から資料を基に説明があった。

(8) その他

松浦幹事より、会員向けの JNC 活動情報提供として、5/21 付け電子メールまたは郵送にて送付したことについて報告があり、今後とも継続してやっていきたいとの説明があった。

(9) 閉会挨拶 (市田副委員長)

本会議の中でも話が出たように、日本の本部 SC 委員長の誕生を楽しみにしたい。今後は日本のプレゼンスを上げていくとともに、アジア各国への実務面でのメリットを意識して進めていきたい。

懇 親 会 : アルカディア市ヶ谷にて、17:30 から 19:00 まで実施した。

以 上